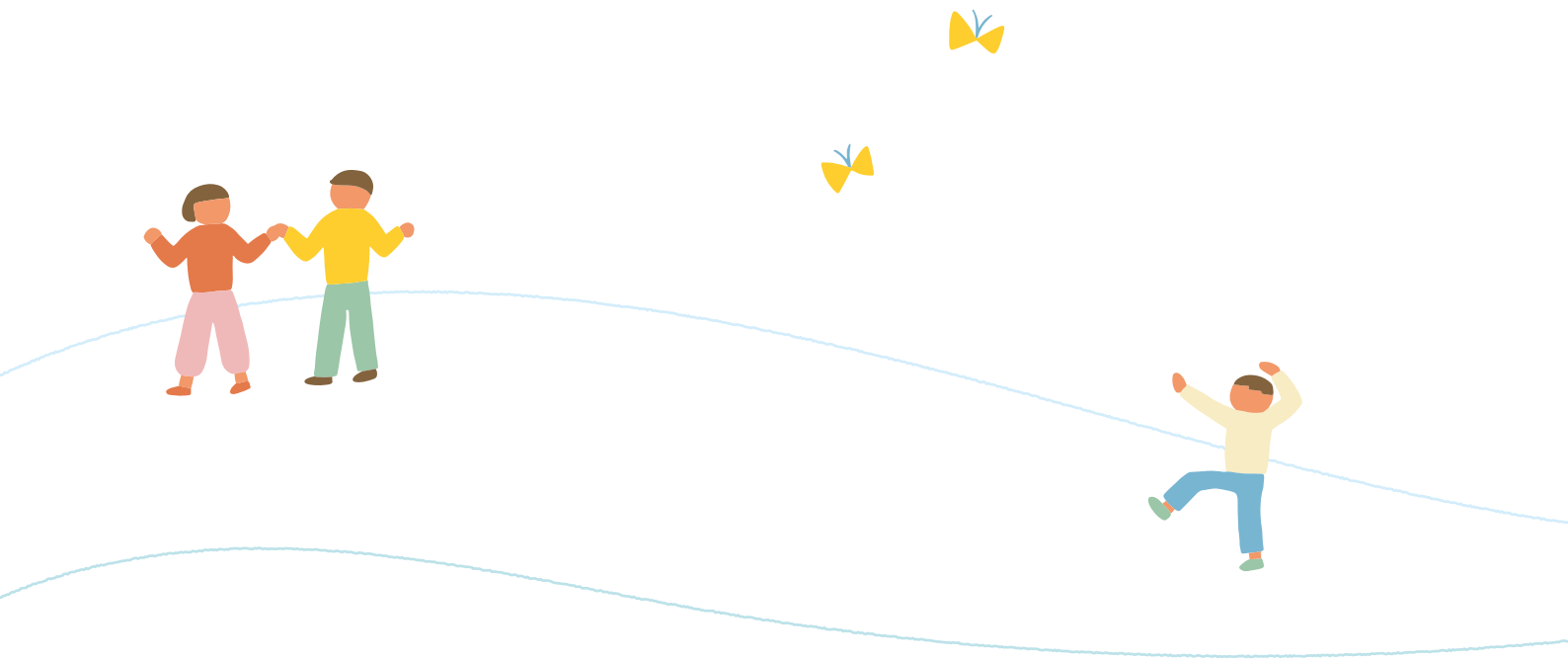
障害と身体をめぐる旅2023

令和５年度 神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター 報告書

（ 運営 ： 認定NPO法人 ＳＴスポット横浜 ）

令和
5年度

神奈川県
障がい者
芸術文化活動
支援センター



ごあいさつ

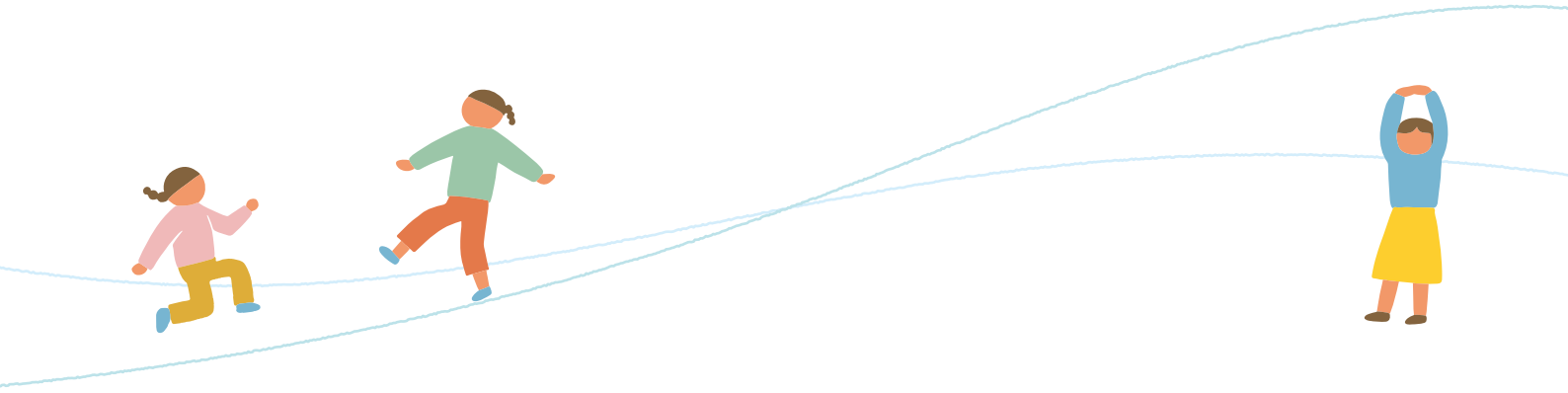
神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターは、令和２年４月から活動を開始しました。

運営団体であるＳＴスポット横浜は、神奈川県横浜市にあるＮＰＯです。
「アートの持つ力を現代社会に活かすこと」をミッションに、小劇場「ＳＴスポット」を運営する芸術機関として1987年に活動を開始しました。2004年からは地域コミュニティに向けた活動を担う地域連携事業部を設置し、学校での芸術家による授業の実施や、地域の文化団体支援などを行っています。

福祉分野における活動は、2015年から開始しました。文化庁による助成や神奈川県との協働事業を通し、地域に暮らす障がい者が芸術文化活動を通して生活の質を向上させ、社会の中で顕在化することで、障がいの有無にかかわらず共生する社会の実現に向けた基盤整備の一翼を担うことを目指した活動を続けています。

支援センターは今年度４年目を迎えました。コロナの影響を受けて、障がいのある人の芸術文化活動が停滞しているなかでのスタートでしたが、その時に見えていなかったさまざまな取組みに、徐々に出会えるようになってきました。その取組みは、福祉施設や文化施設、公民館など、地域のあちこちにあることも分かってきました。今年度は、点在する資源や活動がゆるやかにつながることで、それぞれの場がさらに豊かになることを願って、各事業に取り組んできました。

本年もさまざまな風景、表現と出会いました。この冊子では、旅の様子の一端をみなさまにお伝えいたします。



神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターについて

神奈川県内の障がいのある人が身近な地域で文化芸術に触れられるように、
障がい福祉・芸術文化のネットワーク構築を目指し、令和2年度4月に開設しました。
「つなぐ」「つくる」「支える」の3つを柱に、活動を展開しています。

つなぐ

障がいのある人の芸術文化活動に関する相談を受け、
適切な情報につなぎます。また、障がい福祉・芸術文化の
枠を超えたネットワークを構築します

つくる

芸術家によるワークショップ等を実施し、
障がいのある人が芸術文化活動を
体験・発表できる機会をつくります

支える

講座等を開催し、障がいのある人の
芸術文化活動を支援する人を支えます

厚生労働省「障害者芸術文化活動普及支援事業」について

障害のある人が芸術文化を享受し、多様な芸術文化活動を行うことができるように、地域における支援体制を全国に展開し、障害のある人の芸術文化活動の振興を図るとともに、自立と社会参加を促進することをねらいとした事業です。2017（平成29）年度から実施しています。
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaishahukushi/bunka.html

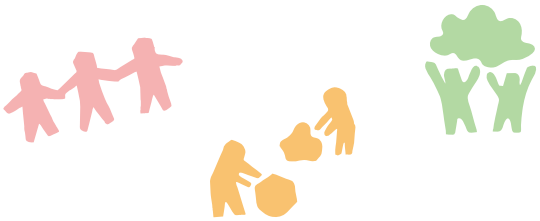
厚生労働省
ウェブサイト

今年度の取組みについて

各事業を取り組むにあたり目指したことと、成果やそこから見えてきた今後の展望は以下のとおりです。

目標：地域の中で活動を続けられるために

1. 文化施設とのネットワークづくり
2. 県内の活動事例の収集
3. 関係機関への働きかけ
4. 自主的な活動のサポート



成果

昨年度を大幅に超える相談件数となり、少しずつ認知が広がってきていることを感じています。相談内容では、福祉施設や芸術団体による自主的な企画に関する相談が多くありました。文化施設などの地域資源をご紹介することで、実現に向けて進む事例もありました。

▶ 詳細はP.07～

成果

県内の７施設に出かけ、ワークショップを行いました。そのうち１施設は、近隣の文化施設がコーディネートを担当し、地域の文化資源の活用につなげました。また実施にあたっては所在する自治体の担当課や文化施設に事業の説明や見学の呼びかけを行い、継続的な実施体制づくりに向けて働きかけることができました。

▶ 詳細はP.11～

成果

障がい福祉と芸術文化の両方の分野の知見を深め、参加者が自分の現場に活かせる理論、体験、ネットワークを渡す講座を３回行いました。
ふだんの活動範囲を超えた取組みや考え方を知り、他施設・他分野の人と話すことが、視野を広げることにつながりました。

▶ 詳細はP.26～

今後の展望

文化施設、生涯学習・社会教育施設とのネットワークづくり

障がいのある人と芸術活動の場をつなげるために、生涯学習・社会教育施設のネットワークも広げていきます。

県内情報の整理

各事業をとおして神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターに蓄積された県内の情報を整理し、みなさんと共有できる仕組みを検討します。

ワークショップ実施後の展開のモデル形成

ワークショップ実施後に、実際に福祉施設のなかでどのように取組みが続いていけるのか、さらに必要なことはなにか、考え続けていきます。

今後もさまざまな分野と協働しながら「つなぐ」「つくる」「支える」取組みを続けていきます。

目 次

04　神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターについて／今年度の事業を通して

〈 つなぐ 〉

08　相談対応内容

09　情報収集・発信／座談会「文化施設のみなさんと考える障がいのあれこれ」

10　協力委員会

〈 つくる 〉

12　リエール×小暮香帆（ダンサー・振付家）
—「それぞれの表現を見つける」

14　ケアセンター×小暮香帆（ダンサー・振付家）
—「みんなの身体とともに過ごす」

16　アグネス園×北川結（ダンサー・振付家・イラストレーター）
—「いろんな身体に出会う」

18　さらん×Art Lab Ova（アーティストユニット）
—「そのままの表現と出会う」

20　紙飛行機×長峰麻貴（舞台美術家・アーティスト）
—「いつもの場所、わたしを彩る」

22　くれよん×ズッコロッカ（あそびのアトリエ）
—「さまざまな素材であそぶ」

24　きたのば×西井夕紀子（作曲家）
—「みんなでつくる表現の場」

〈 支える 〉

27　勉強会　第１回「表現からはじまる、地域とのつながり」

28　勉強会　第２回「一人ひとりから障がいを考える」

29　勉強会　第３回「身体で表現してみよう」

30　報告会　地域とともに考える障がい福祉と芸術文化

つなぐ

ここでは、障がい福祉、芸術文化の枠を超えたネットワーク構築に取り組んだ活動をご紹介します。パンフレットで相談窓口の周知し、障がいのある人の芸術文化活動に関する相談や問い合わせが多く寄せられました。ウェブサイトでは県内の公募・イベント情報などを発信しました。また、県内の文化施設・団体のみなさんといっしょに障がいのある人と文化施設のかかわり方について、考える機会を作りました。支援センターの運営方針については、さまざまな専門家にアドバイスをいただく協力委員会を開き、議論しました。

- 相談支援
- 情報収集・発信
- 文化施設のみなさんとの座談会
- 協力委員会

相談対応内容

障がい者やそのご家族、障害福祉サービス事業者等から芸術文化活動に関する相談を受け付けました。対応件数は156件でした。（2024年2月29日時点）

相談件数の内訳

❶相談者属性　合計：156件

障がい当事者	44
障がい当事者の家族	4
障害福祉関係者	50
芸術家・文化団体・文化関係者	24
文化施設	8
市民団体	3
教育関係者	3
自治体（他支援センターなど）	15
その他	5

❷相談方法　合計：156件

面会	25
電話	62
メール	50
オンライン	5
問い合わせフォーム	13
その他	1

❸居住地別　合計：156件

横浜	76
川崎	12
相模原	9
横須賀・三浦	8
湘南東部	10
湘南西部	18
県央	5
県西	3
県外	8
不明	7

❹相談内容　合計：156件

鑑賞の機会	3
創造の機会	41
発表の機会	32
交流・連携	45
調査研究・保存	1
権利保護	6
人材育成	5
情報発信	13
その他	10

相談内容の詳細

- 鑑賞について……● さまざまな障がいのある人が鑑賞できる美術展を企画している。展示や広報においてどのような配慮が必要か。
- 創造について……● アート活動に取り組める通所先や、造形教室、アトリエを探しているので、紹介してほしい。
- 発表について……● 福祉施設のなかで作品展を行う予定。展示方法についてアドバイスがほしい。
- 交流・連携について‥● イベントで障がいのある人にダンスパフォーマンスをしてほしい。団体など紹介してもらえないか。
- 調査研究について……● 障がいのある人の芸術文化活動に関する調査に回答してほしい。
- 権利保護について……● 企業の名刺やノベルティグッズに障がいのある人の作品を取り入れたい。どう進めたらよいか。
- 人材育成について……● 障がいのある人を対象としたアートワークショップを企画している。講師を紹介してほしい。
- 情報発信について……● 文化施設等が行う障がい者のある人を対象としたイベントなどの広報に協力してほしい。
- その他……● 支援センターの活動内容や、障害者芸術文化活動普及支援事業に関する問い合わせ。

相談内容から見えてきたこと

◆福祉施設や芸術団体から、自分たちで企画している障がいのある人に向けた芸術文化活動へのアドバイスや協力を求める相談が多くありました。芸術家の紹介については、アーティストバンクを持つ文化施設を紹介したり、資金が課題となっている場合には助成金情報をお伝えしたりしました。県内のあちこちで、自主的な取組みが活発にあることが分かりました。

◆身近な地域資源の情報をお伝えするときに、地域の公民館などの生涯学習や社会教育に関する施設や、民間のアートスペースのなかでも、障がいのある人を対象とした取組みがあることが見えてきました。相談の受け手となる連携先をさらに見つけていくとともに、支援センターに蓄積している情報を、だれもが活用できる方法を検討したいと思います。

情報収集・発信／座談会

パンフレットを作成し、相談窓口など事業の周知を行いました。ウェブサイトでは、センター主催事業などの広報をしました。また、「神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターだより」として、県内外の障がい者の芸術文化活動に関する情報発信を行いました。こちらのお知らせは、メーリングリストでもお届けしました。

■講演・講座等の実績

- 社会福祉法人横浜愛育会　管理者研修「愛育会が地域で実現する障害者のはたらく・くらすをエンパワ」（主催：特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター／2023年4月1日）
- 川崎市「パラムーブメント推進イベント」視察（2023年11月3日、11月10日）
- 共生社会の実現に向けた港区文化芸術ネットワーク会議シンポジウム「アートがまちをかえていく」（公益財団法人 港区スポーツふれあい文化健康財団／2023年12月22日）
- 「つながる！ひろがる！パラアート・ミーティング」（主催：公益財団法人 川崎市文化財団／2024年3月13日）

■座談会「文化施設のみなさんと考える障がいのあれこれ」

▶テーマ：文化施設と福祉施設の連携について

▶ゲスト：永沼絵莉子、森永恭子、佐藤貴義（厚木市文化会館）

◎ 日時：2024年1月23日(火)　10：00〜11：30　◎ 参加者：7名

◎ 会場：横浜市市民文化会館 関内ホール リハーサル室（横浜市中区住吉町4-42-1）

地域の文化拠点となる劇場やホール、美術館などの文化施設。障がいのある人を含むさまざまな人が訪れる場所として、どんなことがあったらよいのか、文化施設の職員のみなさんといっしょに考える座談会を行ないました。今回は、支援センターのワークショップ実施事業のうち、1か所の福祉施設でのワークショップ（P.22〜21参照）のコーディネートを行っていただいた、厚木市文化会館のみなさんに、取組みについてご紹介いただきました。県内各地の文化施設のみなさんと、ワークショップでの気づきや工夫などを情報共有しながら、文化施設と福祉施設の連携の可能性について考えました。

特別支援学校の先生に向けた取組み

県内の3か所の文化施設等を会場に、特別支援学校・学級等の先生を対象とした研修を行いました。さまざまな素材に触れて五感を使ったり、他の参加者といっしょにつくったりする体験を通して、ものづくり楽しみ方を発見する美術ワークショップ行いました。障がいの状態や程度に関わらず、すべての児童・生徒が同じ場でともに学ぶ授業づくりに生かすヒントとなったのではないかと思います。またワークショップの前後では、会場となる文化施設の紹介や、横須賀市にある国立特別支援教育総合研究所による特別支援教育に関する情報提供もしていただきました。

※こちらの事業は神奈川県共生推進本部室による「ともいきアートサポート事業」の一環として行いました。

▶テーマ：アートを通じたインクルーシブな授業づくり

▶対象：神奈川県県内の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校に所属する教員

▶アーティスト：ドゥイ（造形ユニット）

	実施日	参加者	場所
（1）	7月27日(木) 13：30〜16：30	21名	横浜市民ギャラリーあざみ野 アトリエ （横浜市青葉区あざみ野南1-17-3）
（2）	8月3日(木) 13：30〜16：30	20名	県立スポーツセンター グリーンハウス ラウンジ （藤沢市善行7-1-2）
（3）	8月21日(月) 13：30〜16：30	19名	横須賀美術館 ワークショップ室 （横須賀市鴨居4-1）

協力委員会

神奈川県内の多分野における関係者のネットワークづくりや、支援センターの運営方針について検討する場として、さまざまな分野の専門家による協力委員会を設置し、年2回のオンライン会議を開催しました。
今回は、公募したワークショップ実施施設の状況を共有し、福祉施設における芸術文化活動の課題や、ワークショップ実施事業の方針について議論しました。

構成員	専門委員	相田泰宏（独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所　情報・支援部　主任研究員） 駒井由理子（公益財団法人 神奈川芸術文化財団 社会連携ポータル課　課長） 又村あおい（一般社団法人 全国手をつなぐ育成会連合会　常務理事兼事務局長） 和田剛（障害者スポーツ文化センター　横浜ラポール　文化事業課長）
	行政関係者	神奈川県障害福祉課、神奈川県共生推進本部室、神奈川県文化課、神奈川県特別支援教育課、神奈川県生涯学習課

第1回　日時：2023年6月21日(水)　10時～12時　開催形態：オンライン会議システムZoomを使用

協力委員の紹介／令和５年度ワークショップ実施事業実施施設公募の状況について

初回は、協力委員のみなさんの活動についてご紹介いただきました。また、今年度のワークショップ実施事業における実施施設の公募の状況について共有しました。実施候補の施設についてご意見をいただいたほか、「実施できない施設に対しても、公募内容にある課題をサポートできるコンテンツがあるとよい」など、それぞれの知見からご意見をいただきました。

第2回　日時：2024年1月11日(木)　10時～12時　開催形態：オンライン会議システムZoomを使用

今年度の事業進捗の報告／今後の方針について

能登半島地震のすぐ後に開催したこともあり、被災地での障がいのある人の状況について、情報交換することから始めました。今年度の事業進捗の報告では、前年度に比べて相談件数が大幅に増えていることから、支援センターだけで対応を担い続ける難しさについて焦点が当たりました。そこから、相談の受け手となる人材の養成を検討する必要があるのではないか等、今後の方針について議論が深まりました。

相田泰宏（あいだ・やすひろ）

横浜市内の特別支援学校教員を経て、令和4年度より現職。障がい児のキャリア教育や就労支援、進路指導における連携のあり方などを研究している。地域に関わらず水準の高い特別支援教育を受けられる環境を整えるために、情報収集・発信をしている。

駒井由理子（こまい・ゆりこ）

神奈川芸術文化財団に勤務し18年目。神奈川県民ホール施設運営課などを経て現職。施設管理などを担当するなかで、障がい当事者がホールを利用する機会が重なったことをきっかけに、さまざまな人が来やすい劇場づくりについて考え続け、現在に至る。

又村あおい（またむら・あおい）

令和元年度まで平塚市役所にて福祉総務課に在籍。過去、障害福祉課在籍時は、障がい者福祉計画、障がい児支援全般などを担当。平成26年度に内閣府へ出向、障害者差別解消法の策定に関わり障害者差別解消法アドバイザーも務める。令和2年度より現職。

和田剛（わだ・たけし）

2001年より社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団に入職。障害者スポーツ文化センター横浜ラポール文化事業担当を経て現職。障がいのある方の芸術発表の場でもある「横浜ラポール芸術市場」をはじめとした障がい者の余暇支援事業を展開。

つくる

ここでは、障がいのある人が芸術文化活動に触れる機会をつくる活動についてご紹介します。今年度は県内7か所の障害福祉サービス事業所にて、芸術家によるワークショップを計24回実施しました。昨年度も実施をした3施設のほか、今回新たに実施施設を公募で募り、29件あった応募のうち4か所の施設にお伺いすることになりました。いっしょに身体を動かしたり、さまざまな素材にふれるものづくりをしたり、音楽を作ったりするなかで、それぞれの好きなことを共有する、豊かな時間が生まれました。

ワークショップ実施

リエール × 小暮香帆

ダンス
DANCE

「それぞれの表現を見つける」

- 期間：（1）2024年1月18日(木)　（2）2月1日(木)　（3）2月8日(木)　● 時間：10:30〜11:30
- 場所：地域交流ホームかわうそ（藤沢市獺郷1002-1（湘南ふくし村内））
- 参加者：（1）8名　（2）8名　（3）9名　● 対象：主に知的障がいのある成人
- アーティスト：小暮香帆（ダンサー・振付家）　● アシスタント：石川朝日、よだまりえ
- 対象施設名：発達支援センターリエール　● 運営法人名：社会福祉法人光友会　● 施設種別：障害福祉サービス事業所（生活介護）
- 住所：藤沢市獺郷1006（湘南ふくし村内）　● URL：https://www.lfa.jp/office/zaitaku/

発達支援センターリエールは、知的障がいを中心に発達障がいや自閉症を伴う方などが通う藤沢市にある生活介護事業所です。もともとは同じ敷地内にある湘南希望の郷ケアセンターで過ごしていましたが、障がい特性に合わせた支援をする施設として2022年に新たに開設しました。日々、その人に合わせた活動を行っていますが、余暇活動を充実させ、さらに地域とつながるきっかけとしたいということで申し込みがありました。ふだん身体を動かす活動を取り入れていることもあり、今回はダンサーの小暮香帆さんにご一緒していただき、身体を動かす楽しさをみんなで見つけました。同じ法人が持つ地域の方が利用できる交流スペースや、まわりに広がる田んぼの中も会場にして、みなさんの身体はどんどんのびやかになっていきました。

各日の様子

1日目　1/18㊍ 10:30〜11:30　参加者 8名

アシスタントのよださんの歌とピアノや、
ラインライトの光といっしょに身体を動かしました。

2日目　2/1㊍ 10:30〜11:30　参加者 8名

小暮さんやまわりの人の動きを真似したり、
自分からハイタッチをしたり、距離が縮まってきました。
後半は室内を飛び出して、外へ。

3日目　2/8㊍ 10:30〜11:30　参加者 9名

最初から外での活動を楽しみにしてしている方も。
影と遊んだり、空に向かって手を伸ばしたり、
身体と自然が混ざり合うようでした。

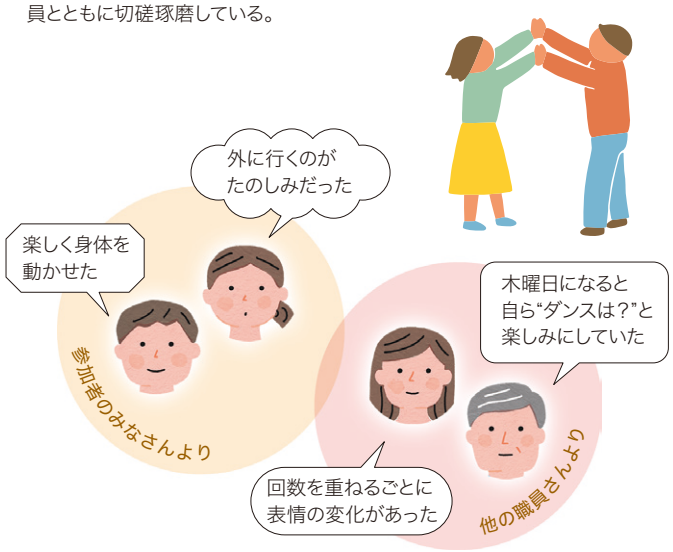
実施を振り返って

福祉施設職員からのコメント

特性上、対人関係が苦手とする利用者がいるなか、どのよう見通しを立てて活動するか課題でした。しかし回数を重ねて行くにつれ心の距離が縮まって、表情よく活動に参加できている姿が見受けられました。新しい取組みに対し、バリアがあったのは職員側だったのかもしれません。新しい活動が利用者の新しい表情を見せてくれたのだと思いました。

石井健太（いしい・けんた）

介護福祉士。社会福祉法人光友会の職員として17年従事する。
2022年から自閉症、発達障害、知的障害の方の専門的な事業所を開所しのサービス管理責任者として日常の支援の評価や組み立てを他の職員とともに切磋琢磨している。



アーティストからのコメント

ワークショップの回を重ねるごとにみなさんの個性や意思を感じ、それぞれのテンポでダンスに触れてもらえたことがとても印象に残っています。身体を動かす楽しさや観察する面白さなど、素直な身体のコミュニケーションから新しい動きのアイディアが生まれていきました。楽器を持ち外へ出て、いつものお散歩コースで山並みをなぞったり寝そべったりジャンプしたり、たっぷり呼吸をしながら特別な時間を過ごすことができました。

小暮香帆（こぐれ・かほ）　http://kogurekaho.com/

日本女子体育大学舞踊学専攻卒。ダンサーとして多数振付家作品に出演しながら、2012年よりソロ活動を開始。ミュージシャン、アーティストとのセッション、映画、CM、MV出演など活動は多岐にわたる。めぐりめぐるものを大切にして踊っている。

まとめ

言葉でのコミュニケーションが難しい人やふだんは身体が触れることが苦手な人も、小暮さんや他の参加者の動きに応じたり、自然と手をつないだりするようすに職員のみなさんも意外に思ったようでした。回を重ねるにつれて、身体を動かす自分のペースやそれぞれの楽しみ方を見つけていたように思います。外での場面では、いつも散歩で見ている風景が手を添える、座るといった視点を変えることで、違って見えることを感じました。日常の中にあるちょっと新しいことを、リエールのみなさんとまた探してみたいと思います。
（川村美紗／支援センター）

ケアセンター × 小暮香帆

ダンス
DANCE

「みんなの身体とともに過ごす」

- 期間：(1)2024年1月18日(木)　(2)2月1日(木)　(3)2月8日(木)　● 時間：13:30〜14:30
- 参加者：(1)8名　(2)6名　(3)4名　● 対象：主に身体障がいと知的障がいを併せ持った成人
- アーティスト：小暮香帆(ダンサー・振付家)　● アシスタント：石川朝日、よだまりえ
- 対象施設名：湘南希望の郷ケアセンター　● 運営法人名：社会福祉法人光友会
- 施設種別：障害福祉サービス事業所(生活介護)
- 住所：藤沢市獺郷1008-3(湘南ふくし村内)　● URL：https://www.lfa.jp/office/zaitaku/

湘南希望の郷ケアセンターは、身体障がいと知的障がいを併せ持った重度重複がいのある方が通う生活介護事業所です。みなさん車椅子を使用し、医療的ケアが必要な方も多くいます。入浴や食事などの日常の介助のほか、光や香りなどで五感を刺激するスヌーズレンなども活動に取り入れています。施設でもご家庭でも外出やイベントに参加しづらい状況があり、地域や芸術文化に触れる機会をつくりたいということで応募がありました。日々の介助で身体に触れる機会は多くありますが、ふだんと違った身体のかかわりを体験できればということで、今回はダンサーの小暮香帆さんにご一緒していただきました。いつもみなさんが過ごしている、日差しがたっぷり注ぎ込む部屋で、音や光と戯れながら時間をともに過ごしました。

各日の様子

1日目　1/18(木) 13:30〜14:30　参加者 8名

マットや車椅子、ベッドなどふだんの過ごし方で
参加しました。手に触れることや音に耳をかたむけること、
それぞれの興味が見えました。

2日目　2/1(木) 13:30〜14:30　参加者 6名

みなさん車椅子に乗って参加。
みんなで円になって動きを伝えたり、ピアノの音と
いっしょに部屋の中を動いたりしました。

3日目　2/8(木) 13:30〜14:30　参加者 4名

ラインライトの下を車椅子でくぐったり、
職員さんと小暮さんたちで抱きかかえて移動してみたり、
いつもと違う景色に驚く表情も。

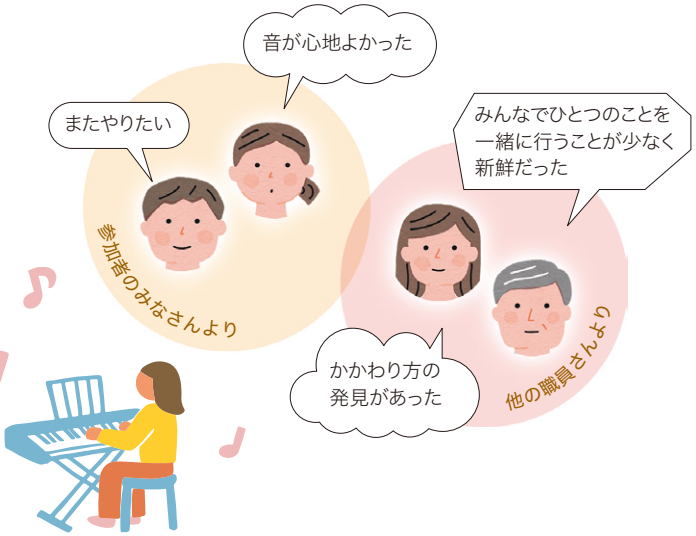
実施を振り返って

福祉施設職員からのコメント

活動の中で涙を流したり、手が少しずつ温かくなったり、楽しいや嬉しいを身体全体で表していたり、利用者さんの初めての表情を見ることができました。職員も一緒に参加して楽しむことができ、浄化される時間でした。身体に長く触れる場面では、身体を通してその人の意志を感じられるような感覚があり、肌に触れるだけでも伝わることを改めて感じられました。その場の雰囲気が不思議な感じでよかったです。

辻本亜希（つじもと・あき）

介護福祉士。社会福祉法人光友会の入所部門に20年以上勤務。2016年より現職。特に医療的ケアのある利用者の「経験すること・体験すること」を大切に、利用者も職員も楽しいと思える事業所づくりに努めている。



アーティストからのコメント

柔らかく優しい時間が流れているケアセンターでは、日頃利用者さんや職員さんが過ごされている空間でワークショップを行いました。みなさんの反応が素晴らしく、パワフルな職員さんにも引っ張っていただきました。身体を動かし委ねることでお互いのコミュニケーションがより充実し、自分自身のコンディションにも耳を傾けるきっかけになっていたらと思います。嬉し涙も大きなあくびも全身で喜ぶ姿も、忘れられない経験となりました。

小暮香帆（こぐれ・かほ）

プロフィールは ▶P.13参照

まとめ

ゆったりとした空気のなか、それぞれの身体にフォーカスがあたる時間でした。小暮さんたちや職員のみなさんが、参加者の身体にそっと手を置いたりリズミカルに触れたりすることで、そこにいるみんなの身体で場が作られていくようでした。ふだん何かの意図をもっている介助でのかかわりとは違った身体のコミュニケーションを通して気づく、参加者のみなさんの表現があったように感じました。
今回の体験から、日々のかかわりに返っていくことがあればと思います。（川村美紗／支援センター）

アグネス園×北川結

ダンス
DANCE

「いろんな身体に出会う」

- 期間：(1)2023年12月8日(金)　(2)12月19日(火)　(3)2024年1月10日(水)　● 時間：10:15〜11:55
- 参加者：(1)19名　(2)19名　(3)24名　● 対象：主に知的障がいのある幼児
- アーティスト：北川結(ダンサー・振付家・イラストレーター)　● アシスタント：内海正考、中村理
- 対象施設名：児童発達支援センター アグネス園　● 運営法人名：社会福祉法人小百合会
- 施設種別：障害児通所支援事業所(児童発達支援)
- 住所：平塚市追分9-47　● URL：https://sayurikai.com/

児童発達支援センターアグネス園は、主に知的障がいや発達障がいのある未就学児が通う施設です。年長2クラスと年中・年少が混ざる3クラスに分かれて、生活に関することから、運動・感覚遊び・音楽・製作などの活動に取り組んでいます。子どもたちの表現を引き出す機会として芸術文化活動を取り入れたいということで、応募されました。言葉の発達もさまざまな子どもたちのあいだでは身振りでのコミュニケーションも身近なようすもあり、今回はダンサーの北川結さんといっしょに、身体を使ったさまざまな表現を楽しむダンスの時間をつくりました。1回あたりを2枠に分けて、3日間で1人2回ずつ参加できるようにグループ分けをしていただきました。保護者のみなさんやきょうだいもいっしょに参加し、親子のふれあいも生まれていました。

各日の様子

1日目 12/8(金) 10:15~11:55 参加者 19名

背の高い内海さんが伸ばす手にタッチしたり、
子どもが触れると北川さんたちが不思議な動きをしたり、
ふだんと違う身体に出会う初回でした。

2日目 12/19(火) 10:15~11:55 参加者 19名

前半は2回目、後半は初参加でした。
2回目の参加者は自分から北川さんたちにかかわったり
動きを真似したり、積極的。

3日目 1/10(水) 10:15~11:55 参加者 24名

長い1枚の紙にみんなで絵を描き、その絵をもとに
北川さんたちが踊ります。思わずいっしょに
踊りだす参加者もいて、デュオの場面も生まれました。

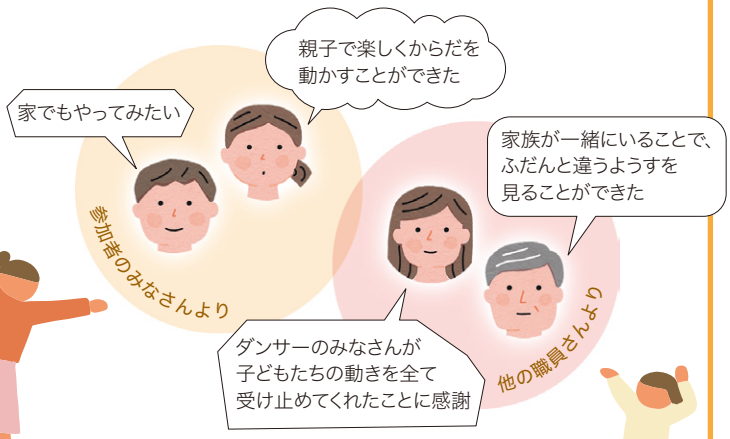
実施を振り返って

福祉施設職員からのコメント

ダンサーのみなさんの参加者に寄り添った関わり方が、場にいる全ての人の心を満たしていました。
声かけの仕方や休憩の取り入れ方も効果的で参加しやすかったように思います。園の活動で行っている馴染みがある動きもあり取り組みやすかったです。ダンサーのみなさんの全身から溢れる表現が参加者の心に響き、表現を生む。自然な形で非言語コミュニケーションが生まれたことに感動し、誰もが持つ表現力を育む支援の大切さを感じました。

入江憂貴子（いりえ・ゆきこ）

子どもと音楽に関わる仕事がしたいと思い、保育士資格を取得。
音楽療法なども学び、2017年にアグネス園に入職。4年間直接支援にあたった。現在は、相談支援専門員として、さまざまなケースの支援ができるよう自分磨き中。



アーティストからのコメント

踊りや生演奏、絵との関わりを通して子どもたちの色々な姿に出会えました。今回は子どもたちの描いた絵をもとにした私たちの踊りと演奏を見てもらう時間を長めに設けました。一緒に動くことはもちろん、“見てもらう”ことで生まれるやりとりが確かにあることを再確認できました。毎回、アグネス園の先生方と一緒に丁寧なフィードバックができたおかげで発見も多く、改善点も明確になり、次回に活かすことができました。一息ついてからの会話が大事な時間になりました。

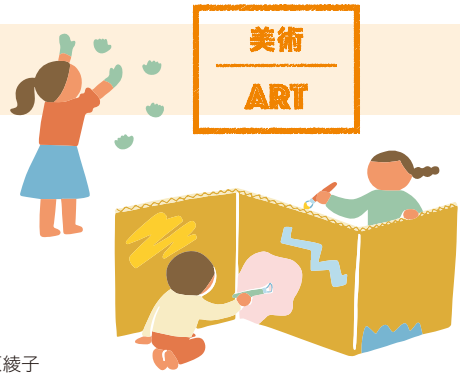
北川結（きたがわ・ゆう） https://ukitagawau.wixsite.com/yukitagawa

桜美林大学にてコンテンポラリーダンスを木佐貫邦子に師事。2008年より白神ももこ主宰のモモンガ・コンプレックスにメンバーとして参加。さまざまな演出家、振付家の作品に出演するほか、近年ではダンスのワークショップも行なっている。

まとめ

子どもたちが安心する親子のふれあいから始めて、少しずつ北川さんたちとのかかわりに移っていきました。
2回目には前回のことを覚えていて、自分から動きを真似するようすもありました。ずっと部屋の隅で見ているだけだったけれど、アシスタントの内海さんが弾く三味線や、クレヨンで絵を描く場面で興味を持って近づいてくる子どももいました。やってみたい、なんだろうという心の動きがダンスの始まりになることを感じました。体験を重ねることの大切さも実感し、継続的に活動に取り入れる方法をいっしょに考えていきたいと思います。（川村美紗／支援センター）

さらん × Art Lab Ova



美術
ART

「そのままの表現に出会う」

- 期間：(1)2023年10月28日(土)　(2)11月25日(土)　(3)12月9日(土)　● 時間：10:30〜12:00
- 場所：(1)(3)桜本保育園（川崎市川崎区桜本1-9-6）　(2)川崎市ふれあい館（川崎市川崎区桜本1-5-6）
- 参加者：(1)10名　(2)18名　(3)15名　● 対象：主に知的障がいのある成人、児童
- アーティスト：Art Lab Ova(アーティストユニット)　● アシスタント：青山るりこ、福田麻衣子、高橋こうへい、小原綾子
- 対象施設名：地域相談支援センターさらん　● 運営法人名：社会福祉法人青丘社　● 施設種別：障害福祉サービス事業所(相談支援)
- 住所：川崎市川崎区桜本1-9-9　● URL：http://www.seikyu-sha.com/hotline/index.php?rby=%20&center=2careman#care2

地域相談支援センターさらんは、障がいのある方の生活に関するさまざまな相談を受けている場所です。韓国や朝鮮にルーツがある人が多く住む地域にあり、互いの違いを認め合う豊かさを大切にする土壌づくりに法人全体で取り組んでいます。障がいの有無、世代、民族などあらゆる違いに捉われず、いっしょに楽しむ場づくりのヒントを得たい、ということで申し込みがありました。今回は、横浜市で障がいのある人や多文化につながる青少年などが集まるアートスペースを開いているArt Lab Ovaのお二人といっしょに、自由に創作ができる場をつくりました。さらんから近隣の特別支援学校等に呼びかけて、地域の障がい児・者などが参加しました。法人が運営する保育園や、多文化につながる子どもの居場所にもなっている公民館を会場に、多様な表現が混ざり合う場になりました。

各日の様子

1日目 10/28(土) 10:30〜12:00 参加者 10名

特別支援学校に通う小学生や、日中一時支援事業所のみなさんが参加。机に向かって絵を描いたり、思う存分絵の具を塗ったりしていました。

2日目 11/25(土) 10:30〜12:00 参加者 18名

ふれあい館を利用する子どもたちが参加。さまざまな言語が飛び交うなか、段ボールも家やウサギなどいろんな変化を遂げます。

3日目 12/9(土) 10:30〜12:00 参加者 15名

初回のリピーターや保育園にいた子どもも参加。やってみたいと思うことをそれぞれに見つけていました。

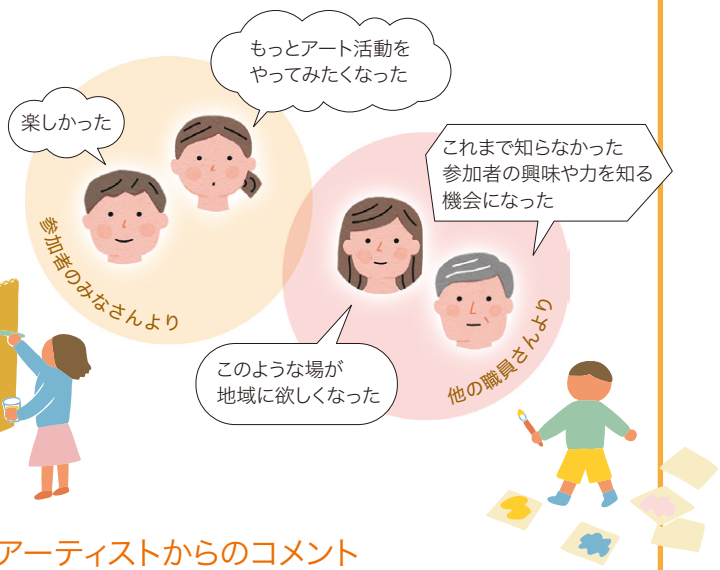
実施を振り返って

福祉施設職員からのコメント

さらんは、この地域の障がい児者と「困りごと」をきっかけに出会います。しかし今回の取り組みは、そうではありません。彼らの「好きなこと」「得意なこと」「やってみたいこと」をきっかけに出会う場を作ることができました。言語以前のコミュニケーション世界には、絵と音楽と数学があると言われます。さまざまな文化を持つ人がともにいる場では言語以前のその豊かな世界を共有することが、リラックスした空気をつくることを実感しました。

武居光（たけい・こう）

川崎区桜本の「地域相談支援センターさらん」センター長。
精神保健福祉士、相談支援専門員。1981年から障害児者とその家族の支援に主にケースワーカーとして関わっている。



アーティストからのコメント

突然壁に描き始めたり、ロッキングが激しすぎて木製の椅子が壊れたりと、想定外のことが多く、スリリングで興味深いアトリエでした。そんな状況を一層楽しくさせてくれたのは、イレギュラーの出来事に常にフレキシブルに応答してくださった職員のみなさんの柔軟性にあったと思います。そんな参加者ファーストな現場において、今回アートの必然を実感していただけたのは、この事業の大きな成果のひとつと感じています。

Art Lab Ova（あーとらぼ・おーば） https://www.facebook.com/artlabova/

スズキクリ

蔭山ヅル

1996年に発足した蔭山ヅル、スズキクリによる、アーティスト・ランの非営利団体。制作経験の有無やしょうがいの有無、年齢、国籍に関わらず、多様な人々が交流をできるアートプロジェクトを展開する。

まとめ

3回とも、障がいの有無や年齢、国籍による分け隔てのない場が生まれました。意思を伝える方法や身体の使い方はそれぞれ違っていても、絵の具やクレヨン、紙や段ボールを使ってみんなが自分のやりたいことを見つけて、表現していました。
さらんのみなさんが大切にしている、違いを認め尊重することと、Art Lab Ovaのお二人が大切にしている、そのままの表現に向き合うことが重なり合ってできた場だと感じました。さらんのみなさんからは定期的に今回のような場をつくっていきたい、という今後の展望も聞かれ、実現に向けていっしょに考えていきたいと思います。（川村美紗／支援センター）

紙飛行機 × 長峰麻貴

美術
ART

「いつもの場所、わたしを彩る」

- 期間：(1)2023年9月12日(火)　(2)11月7日(火)　(3)12月14日(木)　● 時間：10:30〜11:30／14:00〜15:00
- 場所：(1)紙飛行機(横浜市瀬谷区瀬谷5-3-24)　(2)(3)特定非営利活動法人でっかいそら 法人本部 レクリエーションルーム(横浜市瀬谷区瀬谷5-3-24)
- 参加者：(1)20名　(2)26名　(3)27名　● 対象：主に知的障がいのある成人
- アーティスト：長峰麻貴(舞台美術家・アーティスト)　● アシスタント：芹澤亜由美
- 対象施設名：生活介護事業所 飛行船 紙飛行機　● 運営法人名：特定非営利活動法人でっかいそら　● 施設種別：障害福祉サービス事業所(生活介護)
- 住所：横浜市瀬谷区瀬谷5-3-24　● URL：https://www.dekkaisora.jp/service/life-care/kamihikouki/

紙飛行機は、横浜市瀬谷区にある生活介護事業所です。昨年度ダンスの取組みを行った飛行船からグループ分けした施設で、50歳以上の高齢の方を中心に主に知的障がいのある幅広い年代の方が、豊かに日々を過ごすこと大切に通われています。ふだん取り組むこともある創作活動の幅を広げたいということで、今回は舞台美術家の長峰麻貴さんにご一緒していただき、いつも過ごしている場所や自分の身体を装飾して、日常のなかの変化を楽しみました。午前は紙飛行機、午後は同じ法人の他事業所から参加がありました。初回はふだん過ごしている部屋で、2回目以降は同じ建物にある法人本部のレクリエーションルームを会場としました。

各日の様子

1日目 9/12(火) 10:30〜11:30／14:00〜15:00 参加者 20名

紙を切ったりシールを貼ったりして、
個性豊かな「モンスター」を作りました。

2日目 11/7(火) 10:30〜11:30／14:00〜15:00 参加者 26名

細長い紙を組み合わせて帽子をつくり、
お花紙やシールで飾ります。
いっしょにつくる職員のみなさんの工夫も光ります。

3日目 12/14(木) 10:30〜11:30／14:00〜15:00 参加者 27名

不織布を身体に巻いて衣装にし、
初日につくったモンスターたちで飾られた
会場でファッションショー。

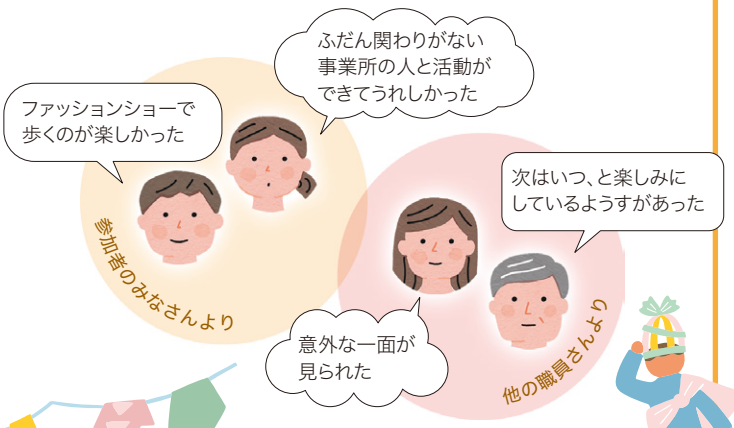
実施を振り返って

福祉施設職員からのコメント

始まってみると、長峰さんの進行で参加者のみなさんが笑顔で、ひたすらに作品を仕上げていくさまを目の当たりにして、感動しました。活動後も話題にしていたり、自分の作品を何度も見て笑顔になったり、3回を楽しみにしているようすがありました。最後のファッションショーでは、気乗りしていなかった人が、ランウェイを喜んで参加していた姿が驚きでした。ふだんの活動では見つけられなかった表現力や興味を、発見することができました。

難波良行（なんば・よしゆき）

生活介護「紙飛行機」の責任者。8年前に他職種より転職。「笑顔で来所、笑顔で帰宅」を心掛けて利用者様と接している。毎日色々なことが起こるが、「雑談出来るチーム」つくりを目指している。



アーティストからのコメント

初めて訪れたとき、施設の明るい空間と雰囲気に安心感を覚え、会うたびに利用者のみなさんの自由な発想と純粋なこだわりに刺激とパワーをいただきました。最後のファッションショーでは、それぞれの笑顔とポーズが印象的で、見ているこちらもハッピーな気分になりました。職員さんの臨機応変さと軽やかさにも助けていただき、空間と人の力でこの場所は生き生きとしているのだと思いました。装い、表現することの力を感じ、私自身も改めて創作の原点に立ち返りました。

長峰麻貴（ながみね・まき） http://teatricalidea.com/

武蔵野美術大学大学院空間演出デザイン学科修了。
劇団四季演出部を経て以後フリー。
空間を主体としたデザイン・アート活動や、日常のなかに劇場を創ることをコンセプトとしたデザイン・教育活動を行う。

まとめ

ふだんは扱わないはさみでいきいきと紙を切ったり熱中してシールを貼ったり、さまざまな道具や素材を前に、みなさんの創作意欲が引き出されていました。帽子や衣装づくりでは、職員のみなさんもいっしょに工夫を重ね、その人らしい作品が完成していました。
ふだん過ごしている場所を飾り、いつもと違う装いをしてみんなで見合う最終日には、表現する喜びが満ちていました。今回の取組みのなかでは、近隣の文化施設の職員さんが見学に来てくださることもありました。表現する場が地域に広がり、新たな出会いにつながることに期待しています。（川村美紗／支援センター）

くれよん × ズッコロッカ

美術
ART

「さまざまな素材であそぶ」

- 期間：(1)2023年11月18日(土)　(2)12月1日(金)、(3)12月9日(土)　● 時間：(1)(3)13:30〜14:30　(2)11:00〜12:00
- 場所：(1)(3)東京工芸大学（厚木市飯山南5-45-1）　● 参加者：(1)5名　(2)7名　(3)10名　● 対象：主に発達障がいや知的障がいのある幼児、児童
- アーティスト：ズッコロッカ(あそびのアトリエ)　● 共同企画運営：公益財団法人 厚木市文化振興財団（厚木市文化会館）
- 対象施設名：児童デイサービスくれよん　● 運営法人名：NPO法人ワーカーズ・コレクティブくれよん
- 施設種別：障害児通所支援事業所(児童発達支援、放課後等デイサービス)
- 住所：厚木市飯山南5-28-8　● URL：https://www.wco-kureyon.org/jidouday.html

厚木市にある児童デイサービスくれよんは、発達障がいや知的障がいのある未就学から学齢期の子どもたちが通う施設です。学齢児、未就学児とグループ分けをし、保護者もいっしょに参加しました。昨年度はダンスを体験し、今回はさらに違った表現を見つけたいということで、ズッコロッカのお二人と音や光などさまざまな表現要素を交えて空間全体を使った創作をしました。ビニールやカラーテープなどの身近な材料や、工場で布のプリーツ加工をする際に廃棄されるプリーツ紙などの素材を使った創作を中心に、それぞれが「やってみたい」と思うあそびを通して、大人もこどももダイナミックに表現しながら関わり合いました。コーディネートは厚木市文化会館が担当し、学齢児が参加する回は広い場所で活動できるように近くにある東京工芸大学の場所を借りて、地域資源の活用につながりました。

各日の様子

1日目 11/18(土) 13:30〜14:30　参加者 5名

さまざまな素材を使用し、服や帽子など
オリジナルの衣装を作り、
ファッションショーのように披露しました。

2日目 12/1(金) 11:00〜12:00　参加者 7名

学童ルームくれよんで未就学児が参加。
大量のプリーツ紙を用意し、その山に潜ったり、
身にまとったりしました。

3日目 12/9(土) 13:30〜14:30　参加者 10名

クリスマスを意識した空間の中で、
さまざまな素材を活用してあそびました。

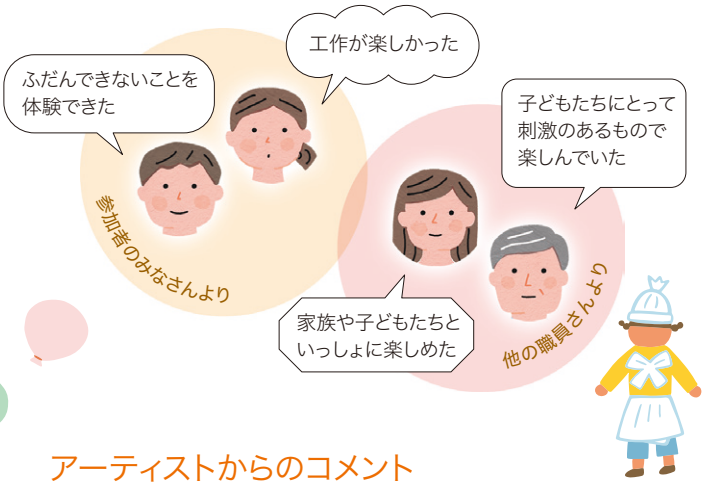
実施を振り返って

福祉施設職員からのコメント

今回は厚木市文化会館のみなさんに協力していただき、いつもと違う活動ができました。作ることが好きな子もそうでない子も、雰囲気と素材を目の前にすると自然と材料を手に取り、イメージをだんだんと膨らませて夢中になって参加しているように感じました。ただ作るだけではなく「いいね」「すてき」などプラスの声掛けがあると、やる気と自信も出ると感じ、大事なことだと改めて思いました。作る楽しさを味わい、それを広げて下さる工夫に引き込まれました。

井上久美子（いのうえ・くみこ）

幼稚園教諭として勤務。その後、NPO法人ワーカーズコレクティブくれよんの保育室に。保育主任を経て、同法人の児童デイサービスくれよんに異動。2019年秋より施設長を務めながら、日々子どもたちの支援に携わっている。



アーティストからのコメント

今回の活動では、どの回も参加してくださった一人ひとりが主役であり、みんなでつくる空間やあそびがどんどん広がっていったのが印象的でした。大人も子どもも誰もが目を輝かせワクワクしながらあそんでくれたことがとても嬉しく、私たち自身も共に楽しく過ごす時間でした。素敵な機会をありがとうございました。

ズッコロッカ https://zucco.mystrikingly.com/

みずのさやか

シーナアキコ

「図工でもしようか！」「ズコろうか！」＝ズッコロッカ！東京都府中市で図工の先生・みずのさやかと、音楽家・シーナアキコが始めた「あそびのアトリエ」。世代に関わらずあそび心を刺激しあいながら、自由に表現し合える場所として、多様なコミュニケーションを生む場になっている。

まとめ

さまざまな素材を使って衣装を作ったり、空間を飾り付けたりするなかで、子どもたちが直感的に素材の魅力に気がつき取り組んでいたことが印象的でした。アーティストの「それいいね！」「こうしてみよっか！」というポジティブな声掛けがのびのびと表現できる空間を作り、くれよんの職員さんたちが細やかなサポートをしてくださったおかげで、参加したお子さんが他のお子さんや大人たちと安心して関わり合いながら過ごすことができたように思います。（永沼絵莉子／厚木市文化会館）

きたのば × 西井夕紀子

音楽
MUSIC

「みんなでつくる表現の場」

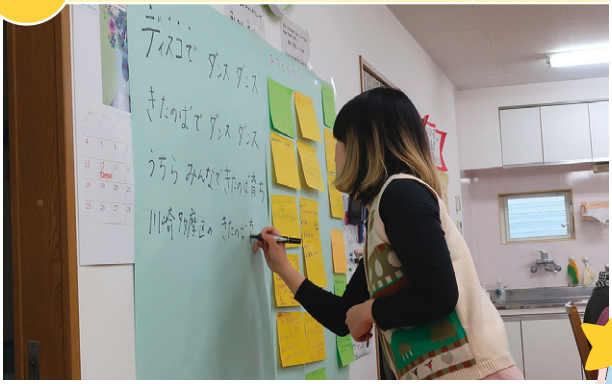
- 期間：（1）2024年2月21日(水)　（2）2月28日(水)　（3）3月13日(水)　● 時間：13:00〜14:30
- 参加者：（1）10名　（2）7名　（3）5名　● 対象：主に精神障がいのある成人
- アーティスト：西井夕紀子（作曲家）　● アシスタント：北川結
- 対象施設名：地域活動支援センター きたのば　● 運営法人名：社会福祉法人SKYかわさき
- 施設種別：地域活動支援センター
- 住所：神奈川県川崎市多摩区登戸2341-1　● URL：https://www.sky1995.com/office/kitanova.html

川崎市にある地域活動支援センターきたのばは、精神障がいのある方の社会参加の場として、1987年に立ち上がった施設です。在籍する約30名はほとんどが女性で、幅広い年代の方がいます。刺繍やビーズアクセサリーなどの製品づくりに取組み、バザーなど地域のイベントで販売しています。昨年度は作曲家の西井夕紀子さんと、それぞれの言葉や音をつむいで歌を作りました。

その時間を通して、みなさんの中に表現したいことがふくらんでいったようで、今回やってみたいと声があがったのが、ディスコ。ディスコで流すオリジナル曲の歌詞や振付けも、参加者のみなさんからどんどんアイディアが出てきました。会場装飾や小道具も手づくりし、きたのば流のディスコ「ディスコでダンス」が生まれました。

各日の様子

1日目 2/21(水) 13:00〜14:30　参加者 10名



それぞれのディスコのイメージや、
やってみたいことを話し合いました。
考えた歌詞やダンスを発表する人も。

2日目 2/28(水) 13:00〜14:30　参加者 7名

一人ひとりが鳴らす楽器の音を重ねて音楽を作り、
決まりの振付けも考えました。
またDJミキサーで、好きな曲のアレンジにも挑戦。

3日目 3/13(水) 13:00〜14:30　参加者 5名

西井さんと参加者でDJを担当。
手作りの扇子や折り紙の花を手に、
思い思いに音楽に身を委ねました。

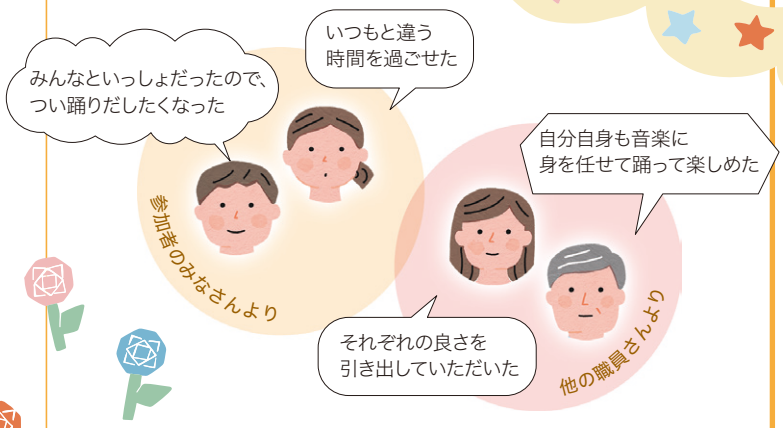
実施を振り返って

福祉施設職員からのコメント

西井さん、北川さんが参加者の声や得意なことを拾いあげてくれたことで、それぞれの個性が光るディスコになり、みなさんの自主性が感じられる機会となりました。参加者からは、ダンスや音楽を通して表現するパワーを感じました。
1〜2回目に参加しなかった人も「ディスコでダンス」の会場の飾りつけや装飾づくりに協力し、音楽やダンスへ苦手意識がある方も別の形で関わってくれたことが嬉しかったです。

鹿野絵莉子（しかの・えりこ）

精神保健福祉士。2012年、社会福祉法人SKYかわさき入職、21年より現職。メンバーの想いや語りから学び、一人ひとりが輝ける活動を共に考え、展開することに重きを置く。きたのばInstagramでは楽しい活動紹介をテーマにメンバーと共に歌い、踊っている。



アーティストからのコメント

みんなでディスコにあるものを話し合った時「休憩するところがある」「踊っても踊らなくてもよい」というのが最初に出てきたところがすてきだなと思いました。歌詞を考えてきてくださった方、突然ダンスの振り付けをしてくれる方など、得意分野での積極的な関わりに、昨年度からの積み重ねを感じることもできました。「楽しかった」の言葉が嬉しい一方、音に敏感な人や輪の中に入るのに勇気がいる人も、その場にいるだけで大丈夫と思えるような場づくりが今後の課題となりました。

西井夕紀子（にしい・ゆきこ）　https://www.yukikonishii.com/

舞台、映像への楽曲提供を行うかたわら、人が音楽を奏ではじめる瞬間・作りはじめる瞬間に魅力を感じ、学校、病院、文化施設、福祉施設でセッションや曲作りを実施。東京芸術大学音楽学部音楽環境創造学科卒業、同大学院修了。

まとめ

昨年度西井さんと過ごした時間を経て、自分自身がやりたいことを少しずつ伝えてくださるようになったというきたのばのみなさん。ディスコの場を作る過程でも歌詞を用意してきていたり、すぐに振付を思いついていたり、表現することが身近になっていることがうかがえました。今回初めて参加した方も、回を重ねるなかで音楽やダンス、DJや装飾と、さまざまなかたちで自分の得意なことや興味のあることを見つけていました。自分たちで場をつくる、という経験が今後の活動につながっていったのならと思います。（川村美紗／支援センター）

支える

ここでは、障がいのある人の芸術文化活動を支援するコーディネーター育成に関する取組みをご紹介します。
今回は「一人ひとりの表現からはじめる」をテーマに、一人ひとりの表現に目を向けることから始まる地域とつながる実践、身体を通したかかわり、障がいへの思考を深めることについて、ゲストのお話をきっかけに参加者と一緒に考える時間をつくりました。全3回のうち、1回目はオンラインで、ほかは対面で各会場に集まっていただき開催しました。また、年度末には事業報告会も対面で行い、参加者同士の交流の機会にもなりました。

勉強会

報告会

第1回

表現からはじまる、地域とのつながり

ゲスト：安武宗吾（磯子区障害者地域活動ホーム 職員）　山崎裕之（社会福祉法人 横浜愛育会 理事長）

● 開催日時：2023年10月20日(金) 16：30～18：00　● 開催形態：対面開催　● 参加者数：25名

● 場所：横浜市神奈川区民文化センター　かなっくホール　音楽ルーム（横浜市神奈川区東神奈川1-10-1）

障がいのある人も地域を支える一員に

この回では、磯子区障害者地域活動ホームの安武宗吾さんと社会福祉法人横浜愛育会の山崎裕之さんをお招きしました。「表現という切り口から障がいのある人の地域生活を豊かにする可能性を考えたい」という横浜愛育会と、日常のなかに芸術文化活動を取り入れている磯子区障害者地域活動ホームの取組みのお話をきっかけに、会場のみなさんと表現すること、地域とつながることについて考えを巡らせました。

山崎さんが理事長を務める横浜愛育会は、神奈川区でパン製造や製菓、喫茶など障がいのある人の働く場となる就労継続支援B型事業所や、生活の場となるグループホームの運営を主に行っています。障がい児の母でもあった前理事長は、地域の人たちの協力を得ながら1つ目の施設を立ち上げました。「地域の人に支えられてできた、地域あっての施設だと考えています。」と山崎さんは話します。
現在は町内会のおまつりや運動会などのイベントに参加したり、マルシェやコミュニティカフェを開いたり、地域との関係を育み続けています。
施設で働く障がいのある人のなかには絵を描くことが好きな人も多く、パンやクッキーを購入した時に渡す「ありがとうカード」の作成など、得意な事を生かす機会もつくっています。「芸術文化は年齢や障がいの有無に関係なくいっしょにできることが強み。障がいのある人や福祉全般のことを知ってもらい、さらには障がいのある人が地域を支える一員になれたら」と芸術文化への期待を話してくださいました。

表現に応答することで生まれる関係性

安武さんが所属する磯子区障害者地域活動ホームは、主に知的障がいのある人が通う施設です。ジェスチャーで自己表現する、チラシの裏に絵を描くなど、日々目にするさまざまな表現を「引き出しに入れてしまってはもったいない」と考えた安武さんは、助成金などを活用し、アーティスト等とつながりながら、芸術文化活動に取り組む機会を施設のなかで作っていきました。さらに完成した作品を商店街の空き店舗で展示したり、地域の子どもたちといっしょに創作したりすることで、地域との関わり合いを深めていきました。

活動を続けるなかで、施設のなかの空気も変化していきました。そこには、アーティストがその人の得意なことを見落とさず、肯定するまなざしに学んだことが影響しています。「応答し合う関係ができると信頼が生まれ、安心が生まれる。すると職員の指示を待っていた利用者が自発的になり、選択肢が広がっていきました」と安武さん。表現を受け止めることが安心につながり、さらに新しい挑戦や表現になっていることがうかがえました。

会の後半はグループディスカッションの時間とし、地域や所属をまたいだ参加者同士の交流が生まれていました。
ふだんと違う外の空気を取り入れることで、日々が豊かになっていく2施設の実践のお話が、参加したみなさんの活動のヒントになったのならと思います。

安武宗吾（やすたけ・そうご）

「ぼくのあたりまえは　きみのあたりまえと　おんなじようでちがってる　だからおもしろい」そんな風に思いを馳せて、日々メンバー達とワイワイガチャガチャと時間を過ごしています。楽しく生きる為に福祉とアートって必要なんだなと思います。

山崎裕之（やまざき・ひろゆき）

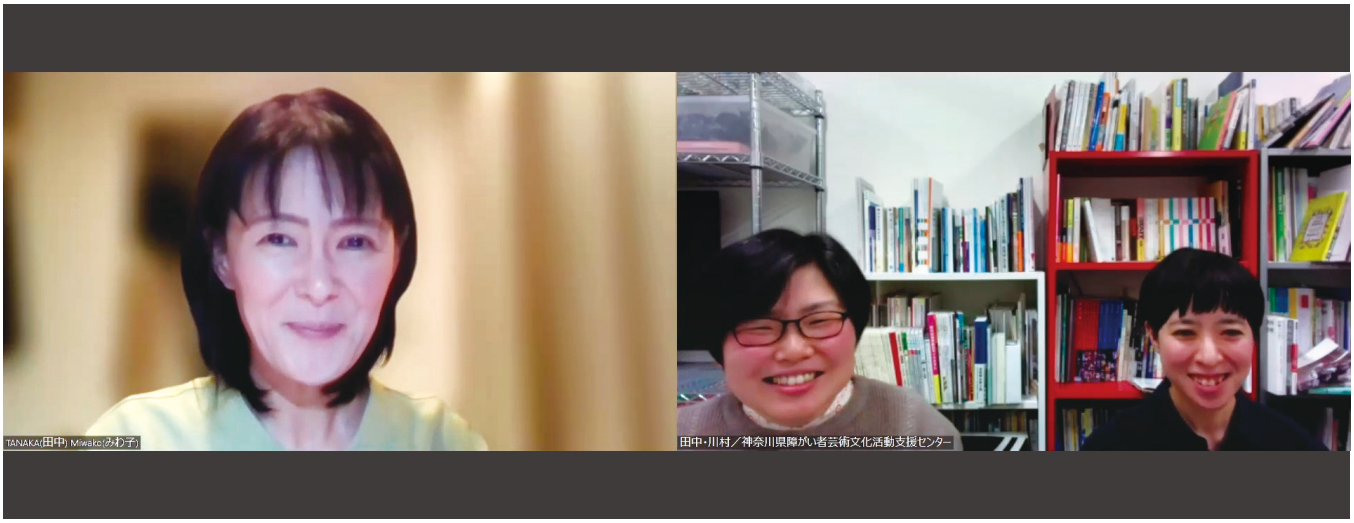
社会福祉法人 横浜愛育会 理事長。
地域のちょっとした困りごとなどを、法人と利用者さんの力を利用して解決できないかを日々考えている。そのためにも地域との関わりを大事にし、地域活動にも積極的に関わっている。

第2回

「一人ひとりから障がいを考える」

ゲスト：田中みわ子（東日本国際大学 健康福祉学部 教授）

- 公開日時：2023年12月11日(月) 11：00 ～ 12月25日(月) 11：00
- 開催形態：オンラインでの動画公開　● 申込み者数：46名



社会モデルに基づく障害学の考え方

医療モデルから社会モデル、そしてその先へと、障がいの捉え方は時代によって変化しています。この回では、障がいを社会・文化の視点から捉え直す障害学の立場から、障がいのある人の表現を研究分野としている田中みわ子さんをお招きし、“障がいとは何か”について考えを深めました。

障害学とは、1970年代以降の障がい者運動の発展と、障がいのある人たち自身の経験から生まれた学問分野です。それまでは福祉や教育、医学的な領域で研究されてきた障がいを、社会や文化といった視点で、学問分野を横断して新たに捉え直しました。第2次世界大戦後のノーマライゼーションの展開や、障がい者運動の高まりなどの時代背景も大きく影響し、理論だけではなく、社会政策など社会の変革に影響する実践も伴っていることが特徴のひとつです。障害学の考え方は障がいの社会モデルに基づいています。社会モデルは、障がいを心身の機能や身体的な構造に焦点を当てるのではなく、社会が作り出しているという視点を持っています。障害学ではこれをもとに、排除や抑圧などの社会的な不利益、またはそうした経験を障がいと捉えるのです。「社会モデルでは、障がいのある人が日々感じている生きづらさは、社会からの働きかけによってある程度解決できると考えられます。ここが社会の変革につながります。」と田中さんは話します。

障がいの経験を肯定し、表現することで社会に問う

障害学の流れと同時に提唱され、社会モデルにおける社会変革として進んだ芸術運動がディスアビリティ・アートです。芸術ジャンルを問わず、痛みや苦しみも含めて障がいの経験を積極的に肯定して表現した作品や、その表現形態を生み出す活動のことを指しています。事例として紹介された身体障がいのあるアーティストの作品や言葉は、障がいのない人が作り上げた障がい者像を痛烈に批判するなど、現在の私たちにも突きつけられる内容です。ディスアビリティ・アートの考え方は「社会全体の意味を問い直したり、新たな関係性を作り上げていく営みそのものと捉えています。」と田中さんは話します。「異質なもの」と捉える感覚は、さまざまな文脈の中で作られる部分があることを考えさせられます。

ディスアビリティ・アートの作品や運動は、身体に着目した作品や言葉での主張が多く残され、身体障がい者に限られているのではないかという指摘もありますが、「福祉の現場では、例えば精神障がいのある方が自分たちの痛みを分かち合う、あるいは分かち合えないということを掘り下げるといった営みがあると思います。障がい種別、または作品化することに限らず、経験を個人に閉ざさずに社会や他者に影響を及ぼしている、という点では、その営みもディスアビリティ・アートと同じ流れにあると捉えられると考えます。」と田中さんは話します。一人ひとりが抱える生きづらさが、障がいと捉えられることもあれば、他人に影響を与える表現にもなる。障がいとは何かということとともに、表現とは何かにも考えを巡らせ、日々のなかにある関わりやまなざしにも、表現の兆しがあるのではないかという気づきがあるお話でした。

田中みわ子（たなか・みわこ）

東京家政大学・東京家政大学短期大学部期限付助手、東京大学先端科学技術研究センター特任研究員、筑波大学外国語センター特任研究員を経て、2014年4月より東日本国際大学に所属。障害学の立場から、障害のある人の表現について、身体文化研究を試みている。

第3回

身体で表現してみよう

ゲスト：入手杏奈（ダンサー・振付家）　アシスタント：涌田悠

● 開催日時：2024年2月5日(月) 14：00〜16：00　● 開催形態：対面開催　● 参加者数：8名
● 場所：杜のホールはしもと　多目的室（相模原市緑区橋本3-28-1ミウィ橋本8階）

身体の温度や輪郭を確かめる

気持ちや感じたことを表現するときに、身体を使って伝わることもたくさんあります。この回では、ダンサー・振付家の入手杏奈さんをお招きし、身体で表現することの楽しさを体験するダンスワークショップを行いました。参加者のみなさんもいっしょに身体を動かしながら、ダンスのはじまりを見つけていきました。

まずは、全員で円になって自己紹介。障がいのある子どもが過ごす施設の職員さんや、障がいのある人が働く施設の職員さん、ダンサーとして障がいのある人と関わっている方など、さまざまな参加者が集まりました。
全身を動かして身体をほぐしたあと、まずは会場の中を歩くことから始めます。後ろ向きでも歩いてみると背中で人や壁の気配を感じ、身体の感覚が研ぎ澄まされていくようでした。今度は歩きながら、出会った人と手と手、背中と背中など身体を触れ合わせたり、ジェスチャーのような動きを真似し合ってあいさつをします。「触れ合ったまま、少し相手の温度や感触を感じてみましょう」と杏奈さん。その後、自分で自分の顔やお腹に手を置く、床に寝そべるなどなにかに触れている身体の部位に意識を向けます。他人の身体、自分の身体の温度や輪郭を感じ、身体の存在を改めて確認する時間をたっぷりと過ごしました。

身体から伝わるその人らしさ

休憩をはさみ、次ははみんなで円をつくります。手拍子やポーズをリレーのように隣の人に動きを伝え、だんだん隣に限らず、ボールのように誰かに動きを渡していきます。同じポーズでもその人によって違う雰囲気が生まれ、オリジナルの動きにユニークさやかわいらしさなどその人らしさが感じられます。短い時間でお互いのことが少し分かるような感覚がありました。最後は真ん中に集合し、腕が絡み合うように全員で手をつなぎ「なべなべそこぬけ」のように手をつないだまま腕の絡まりをほぐし、一つの円になることを目指しました。腕をくぐったりまたいだり試行錯誤を繰り返しましたが、ほぐれないままタイムアップ。会話をしながら自分と相手の身体を観察することをとおし、心の距離も近づいているようでした。

後半は、今日の感想を共有しながら、質疑応答の時間を作りました。参加に気乗りしない人の誘い方や、ふだんに取り入れられる身体の動かし方など、それぞれの現場に取り入れるためのヒントに関する質問があり、入手さんのこれまでの経験から感じていることを教えていただきました。
自分や相手の身体に意識を向け、そこに“いる”ことを感じる。そして身体が語るその人らしさに気づく。それぞれが持っているダンスの種を見つけ、その豊かさと面白さに触れる時間になったのではないかと思います。

入手杏奈（いりて・あんな）

ソロ活動を主軸に様々な舞台作品に出演、振付。
近年では『夜の女たち』(長塚圭史演出)、範宙遊泳『バナナの花は食べられる』(山本卓卓作・演出)等に出演。
さまざまな世代にWSを行う。「第1回ソロダンサフェスティバル2014」最優秀賞受賞。

報告会　地域とともに考える障がい福祉と芸術文化

ゲスト
[藤沢市でのダンスの取組み]辻本亜希（湘南希望の郷ケアセンター 課長）、石井健太（発達支援センターリエール 課長）
[平塚市でのダンスの取組み]遠藤裕子（児童発達支援センターアグネス園 園長）
[川崎市での美術の取組み]武居光（地域相談支援センターさらん センター長）

● 日時：2024年2月20日(火) 16：00～18：00　● 場所：神奈川県民ホール 6F大会議室（神奈川県横浜市中区山下町3-1）　● 参加者：22名

この報告会では、今年度の支援センターの事業について報告するとともに、ワークショップ実施施設の職員のみなさんといっしょに、取組みを振り返りました。
会の後半では、神奈川県が実施する障がい者の芸術文化活動に関する事業紹介や、参加者同士が情報交換をする時間も設けました。

最初に支援センターから今年度の事業について報告したあと、今年度初めてワークショップ実施を行なった4施設の取組み紹介をしました。それぞれ実施施設を募集する公募に応募をして、実施につながった施設です。職員のみなさんに、ワークショップ通して感じたことを、改めてうかがいました。

※各施設のワークショップの詳細は、P.12～19をご覧ください。

「職員のかかわり方や活動が固定しがちなので、違う角度から利用者の反応や可能性を引き出したかった」というリエールの石井健太さん、ケアセンターの辻本亜希さん。ダンスの取組みをとおして、リエールでは「意思表示しづらい人も、回を重ねるたびにバリアがなくなっていた」、ケアセンターでは「身体を動かすことが難しい人も、光や音楽などさまざまなアプローチによって、見るだけではない触れ合いがあった」と参加者の新鮮な反応があったことを振り返りました。
同じくダンスの取組みを行ったアグネス園の遠藤裕子さんは「意思決定支援において、言葉以外でも子どもたちの気持ちの表出を促せたらと考えた。今回、新しい面や力を引き出せた」と、具体的な場面を挙げながら伝えてくださいました。いっしょに参加した保護者からは、慣れている環境だったから参加できたという声もあり「ふだんの出かけ先も、それくらい慎重に選ばなければならないということを感じた」という気づきもあったと言います。
「地域の相談センターであるさらんを、困りごとをきっかけに来る場所ではなく、楽しい場所にしたいと思っていた」というさらんの武居光さん。美術ワークショップでは、アーティストのかかわりによって、参加者の表現がどんどん広がっていったことが印象的だったと話しました。

最後に、福祉とアートのまなざしの違いについて、感じたことを伺いました。武居さんは「支援者はつい『～しようよ』と促しがち。今回は『好きにしてよい』という姿勢に学ぶことがあった」、遠藤さんと石井さんからは「参加者に無理をさせない、距離感が絶妙だった」「参加者の自然体を受け止め、本人なりの参加の仕方をくみ取っていた」と障がいのある人との向き合い方の違いを感じたと話しました。

後半は、テーブルごとに今日の感想やご自身の活動について共有する時間とし、話が尽きないようすでした。今後も地域や分野をまたいでさまざまな視点を交換しながら、障がいのある人と芸術文化がつながるよりよいあり方を、みなさんと考えていきたいと思います。

プロフィール

石井健太（いしい・けんた）
▶P.13参照

辻本亜希（つじもと・あき）
▶P.15参照

武居光（たけい・こう）
▶P.19参照

遠藤裕子（えんどう・ゆうこ）
平成29年に社会福祉法人小百合会、児童発達支援センターアグネス園に入職。平成31年から園長を務める。年々、子どもを取り巻く環境の変化や家庭の多様化に伴い、本人のみならず、保護者やきょうだいを含めた家族全体を支援していく重要性を感じている。

おわりに

障がいと身体をめぐる旅に最後までお付き合いいただき、ありがとうございます。
私たちが出会ったさまざまな身体、言葉、風景…。みなさんに届いたでしょうか。
この旅の記録が、みなさんの身近にある身体、言葉、風景を、これまでとは違う視点で見つめるきっかけとなったのなら嬉しいです。

今年度はさまざまな「混ざり合う」場を目にしたことが印象的でした。相談対応では、文化施設や企業など、これまで障がい福祉とかかわりがなかったところに、障がいのある方の表現がつながるようなお話が多くありました。勉強会では、地域や分野をまたいで1つのテーマについていっしょに意見や考えを交わす場が生まれました。ワークショップでは、障がいの有無や年齢、国籍にかかわらずともに過ごし、それぞれの表現をいっしょに見つけました。手と手が触れあったときの喜びや、絵の具を混ぜて新たな色を見つけたときの驚き、自然の中で空や山と身体が溶けあうような気持ちよさ。今まで出会っていなかった人や物事との出会いが、表現の種になっていたように思います。

これからも、誰もが芸術文化に触れられる場のあり方を探りながら、さまざまな表現が交差する風景を見つけに、旅を続けていきたいと思います。

障害と身体をめぐる旅 2023

編集	田中真実、川村美紗	写真	金子愛帆(P.12〜25)	デザイン	水色デザイン
イラスト	熊本奈津子	印刷	共進印刷	テキスト	川村美紗

発行　神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター
〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸1-11-15 横浜ＳＴビル地下1階
（ 認定NPO法人 ＳＴスポット横浜 地域連携事業部内 ）

発行日　2024年3月31日

本事業についての問い合わせ ： 神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター
〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸1-11-15　横浜ＳＴビル地下1階
（ 認定NPO法人 ＳＴスポット横浜 地域連携事業部内 ）
TEL ： 045-325-0410　FAX ： 045-325-0414　MAIL ： info@k-welfare.org
https:// k-welfare.org　神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター
https://www.stspot.jp　認定NPO法人 ＳＴスポット横浜

神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター

STSpot Yokohama

令和
5年度

神奈川県
障がい者
芸術文化活動
支援センター